

2021年11月29日
株式会社日本政策金融公庫
総合研究所

日本公庫総研レポート『「デザイン」で競争力を高める中小企業』を発行

日本政策金融公庫総合研究所では、日本公庫総研レポート『「デザイン」で競争力を高める中小企業』を発行しました。

デザインというと、これまでは見た目や外観を飾ることととらえられていましたが、現在では、ユーザーや消費者から信頼を獲得し、製品や企業のブランドを構築するために欠かせない取り組みと考えられています。中小企業もこの経営と一体となった取り組みをうまく取り入れることができれば、競争力を強化することができます。

そこで、本レポートでは、デザインに取り組んで成果をあげている4社の中小企業の事例を紹介しつつ、どうすれば経営にデザインを取り入れることができるかを探りました。

本レポートの概要は以下のとおりです。

本レポートの概要

1 デザインは競争力の源泉である

デザインへの取り組みは、ブランドの構築やイノベーションの実現を通して、新市場の開拓などの中小企業が抱える課題の解決にも役立ち、企業の競争力を強化する。

2 中小企業がデザイン経営に取り組むポイント

(1) デザインは特別なことではない

デザインは、ものづくり企業であれば、多かれ少なかれ、すでに取り組んでいることである。新しいデザインのヒントは普段の仕事のなかにある。

(2) デザインと技術はセット

新たなデザインは、既存の技術だけでは実現できないことが少なくない。既存の製品が解決できていない問題に取り組むため、新たな技術や工夫が必要になる。

(3) 外部デザイナーの起用法

専門的な知識やスキルが必要となる場合には、費用をかけて外部の専門デザイナーを起用した方がよい。具体的なケースとしては、従来と異なる市場に参入しようとする場合などがある。

(4) 一過性のイベントで終わらせない

デザインへの取り組みは、継続し、企業文化として定着させなければならない。ブランドの構築はもちろん、デザインを経営に取り入れた成果は一朝一夕には得られない。

※ 本レポートの全文は、[こちら](#)をご覧ください。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 中小企業研究第二グループ（担当：酒井、松井）

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー Tel 03-3270-1269